

教育最前線

連載 43

●(株)ドリームモータースクール

高次脳機能障がいの方の運転復帰を支援するための安全運転教育をスタート



ドリームモータースクール教育研修課課長補佐の三浦剛基さんの指示に合わせて、Wさんは実車での様々な課題に取り組んだ

長野県長野市と須坂市に自動車教習所を展開する(株)ドリームモータースクール(本社・長野県長野市)は、身体が不自由な方を対象にした初心運転者教育を行うなど、長年にわたり障がい者の運転免許取得をサポートしている。そして昨年からは、脳梗塞などにより高次脳機能障がいとなった方が回復後に運転を再開する際の支援にも乗り出した。

同社取締役社長の吉村征之さんは「医師も作業療法士も、運転をさせて良いか判断する材料がなくて困っているという状況があります。そこに、私たち自動車教習所のような運転のプロの視点からアドバイスするというステップを加わえることで、解決できることがあるのではないかと考えました」という。そして、ホングの「自操安全運転プログラム」を取り入れるなど支援体制を整備した。

実 車で運転への影響の有無を確認

昨年12月16日、ドリームモータースクールを利用したのは昨秋に脳梗塞となり、長野中央病院で治療を受けていた患者のWさんだ。長野中央病院では、患者



コース内にあるいろいろな交差点を通過



バイロンにクルマの先端を合わせて停止

開始したことで、長野中央病院はWさんに受講を提案したのである。

長野中央病院・リハビリテーション科主任の倉坂美和さんは「Wさんは手足の麻痺はないものの視覚認知に障がいが残っています。サポートソフトでは問題がみられなかったのですが、実車で運転への影響の有無を確認することにしました」と話す。

講習を担当したドリームモータースクール教育研修課課長補佐の三浦剛基さんは、長野中央病院を通じてWさんの症状を把握した上で講習の内容を決めた。「病院から、Wさんの症状については比較

から医師に運転復帰に関する相談があった場合、医師からの指示に基づいて作業療法士が対応している。その際、患者の運転能力を評価する材料の一つとして、ホンダセーフティナビ(簡易型四輪ドライビングシミュレーター)の「リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト」を活用している。

このサポートソフトによる評価に加え、近隣にあるドリームモータースクールが高次脳機能障がいのある方の受け入れを



車庫入れでは後退時に周囲の状況を把握し、適切な操作ができているかを確認

的軽いもので、視覚的な部分に問題があると聞いていました。それが運転に影響があるものかどうかを確認しようと考えました。今回は、他の教習車両が走行している状況で運転したいというWさん本人の希望もあり、ペーパードライバー講習を受講してもらうことにした。

外周コースを数周して、Wさんが教習車両に慣れた後、助手席に同乗する三浦さんが指示を出していく。まずは、直線コースでは左右それぞれの白線にクルマを寄せて走る、コース上にあるバイロンにクルマの先端を合わせて停止するという課題。次は、合図を出すという操作を加えながら、信号交差点や無信号交差点の通過、クランクやS字コースを走行。さらに、バイロンスラロームや車庫入れにも取り組んでもらった。

講習の最後、三浦さんはWさんに「車庫入れなどで、空間を把握する能力には大きな問題は見られませんでした。ただし、クルマを後退させる時の速度をもつとゆっくりしたり、交差点を通過する際

県 全体でも自動車教習所と病院との連携をめざす

Wさんは「脳梗塞になって、以前と物の見え方が変わっているという自覚があります。そうした状態で運転しても大丈夫か不安でしたが、今日、受講して安心感を得られました。運転の再開に向けて、こうした仕組みが出来上がっているのは、たいへんありがたいです」と感想を語った。

長野中央病院リハビリテーション科長の中澤真由美さんは「患者様が個別に自動車教習所で指導を受けても、細かい挙動や反応まで見ていただけなことが多くあります。病院から患者様の状態や課題を自動車教習所に伝え、私たちが知りたいところも確認してもらえるので安心感があります。患者様にも受講を勧めやすいです」と、ドリームモータースクールと連携を深めていきたい考えを示した。

ドリームモータースクールの吉村さんは「今日は、第一歩を踏み出したところと。これからも、病院から相談があれば、積極的に対応したいと思っています。このような個別の連携だけでなく、長野県内の自動車教習所と病院が枠組みをつくって取り組んでいくことも重要で、そうした動きも既に始まっています」と、今後を見据える。



長野中央病院リハビリテーション科長の中澤真由美さん(左)、倉坂美和さん(右)

※リハビリ加療中の方の運転復帰を車両訓練でサポートし、より安全に自由な移動を楽しんでいただくことをめざす安全運転教育プログラム

TOPICS

01 ●長野県警察本部とHondaとの交通安全協定締結 相互が蓄積している情報を共有し、交通事故対策につなげる

Hondaは長野県警察本部と交通事故防止対策の推進に関する協定を締結。昨年12月6日に長野県庁にて、同県警本部の北原久弘交通部長と、本田技研工業(株)安全運転普及本部の原田洋一事務局長が協定書に調印した。「SAFETY MAP」(8面参照)に表示される急ブレーキ多発地点デ

ータを同県警に提供するなど、道路利用者の安全確保に向けて相互に協力していくこととなった。

北原交通部長は「この協定を通じて今後、Hondaが蓄積している貴重な急ブレーキ多発地点データを提供していただけるようになりました。これをもとに、交通安全活動に有効に役立て、県民の安全・安心な暮らしを守りたい」と挨拶を述べた。また、原田事務局長は「官公庁との連携によって、交通事故の撲滅につなげていきたい」と語った。



本田技研工業(株)安全運転普及本部の原田洋一事務局長(左)、長野県警察本部の北原久弘交通部長(右)

